「福島を訪ねる旅」に参加して（参加者感想文）

●今回この企画に参加出来て本当に良かったと思います。震災はわかっていても避難した後の生活、特に原発の問題が大きいと思った。これにより帰還困難区域があり誰もいない町、あの光景を見たらぐっとくるものがあります。まだ、除染作業もあちこちで多く見かけずっと続けて行かれる事ですよね。大変ですよねとしか言えません。野菜、果物も以前よりも検査結果が良くなっていると言う事、とても喜んでいます。仮設住宅での生活も六年目にはいり着の身着のままに来た当時とは随分変わったと思います。知らない人同士でとまどう事が多かったけど今は友達になり良かったと聞きました。一部では仮設住宅に慣れない方もいらっしゃると思います。大変ですよね。ご高齢の方は特に。最後に・・・一日も早い復興も願います。実際にこの目で震災の現状を見させてもらい良かったです。原発はいらないと思います。雑字にて失礼します。

●この研修旅行に参加出来、私が思っていたのとは全然違った現実を知る事が出来ました。私の想像では町は復興が進み、活気ある人の行き交う町になっているだろうと思っていました。現実は５年という月日にもかかわらず、帰還困難区域は草がおいしげり、あちらこちらで除染作業をする作業員、その土を入れたフレコンバックが集められブルーシートで覆われたり、白い囲いの中に集められた多くのフレコンバック、それがたくさん見られ殺風景なままでした。原発の事故により放射能汚染という目には見えないもののために一行に進まぬ復興、農業、漁業、畜産等風評被害の為にどれほど悔しい思いをされたことか・・・。全ての作物に対して放射性物質検査を実施され安全な作物を届けられていることを聞き、見学することが出来ました。地球温暖化により自然災害はますますひどくなっています。今、稼働している原発も福島と同じ事故がおこる事はありえると思います。原発のない、自然に寄り添うクリーンな生活を１人１人が心掛けていく時代に入っていると思います。この旅行に参加させていただきありがとうございました。職員の牧様、桑原様、大里様お世話になりありがとうございました。

●今回の旅で、メディア報道はそれとして受け止め、自分の目や耳で見聞きをしてこそ見えるものや感じるものがそこにあることを実感した。車窓の向こうに広がるのは荒涼たる雑草におおい尽くされた荒地と、そこに置かれたグリーンシートで覆った除染廃棄物を入れた黒い袋の山、山、山。無残に朽ち果てた人気のない民家や建物。見かけるのは、道路わきに立てられた除染作業中の無数の旗、除染作業中の作業員とトラックだけ。言葉を失った。至る所に張られたバリケードの向こうは帰宅困難区域。仮設住宅での住民の人達との交流では、今なお厳しい現実の中で生きねばならず、その複雑な胸の内や心の叫びをお聞きして、切なさ、やるせなさで一杯になった。同時に、何ひとつ不自由なく恵まれた日々を送れていることが、どんなに幸せなことかを、原発立地県として決して他人事ではないことを改めて気づかされた。組合員の皆さん！震災（原発事故）から５年の福島、風評被害に苦しむ生産者の方々を、それぞれのやり方で支援し続けましょう。原発は絶対いらない！！

●原発から３０㎞も離れた全村避難飯館村の桜並木、５年以上経った今も除染作業者以外は誰もいない。道路から見える家も窓ガラスの一部が割れたりして荒れている。周辺の空地も草が伸び放題で自分の家がこんなだったらと原発事故の恐ろしさを痛感した。このような現実を目の当たりにしながら、何もなかったように九州の原発が再稼働を進めているのが腹立たしい。また今回の旅でコープ福島さんの①放射能汚染に向き合う自分の物差しづくり②県産品の利用回復やその他の取り組みやＪＡさん等の取り組み、被災者の方達の生の声を聞く事ができ、福島の現状（一部）を正しく知ることができた。

●福島を訪ねる旅、参加してよかったです。震災から５年たった今、福島はどう復興しているのか、自分の目でみたいと思い参加しました。実際仮設住宅で生活している方々の生の声が聞けた事で、原発は全国安全ではない！！と強く感じました。経済力より命、お金より命、なんでもない生活が大事だと。６年もの自分の家に帰ることができない帰還困難区域の方々の生の声。福島から学習してほしいとうったえてありました。荒れ果てた田畑を目にして、バスの中からではありましたが、目にみえない放射能の恐ろしさ、不安な気持ちとなり胸が痛くなりました。今回参加した事で原発の恐ろしさを感じ、これ以上原発稼働を許してはいけないと、原発はいらないと思いました。

●福島第一原発事故から５年以上が経過し、復興は進んでいるのか、原発の終息が見えない中、原発の再稼働と、今なお仮設住宅等で暮らす人々の思いを知りたくて、でも自分からは“福島”は遠く、なかなかアクションを起こせずにいました。そんな時“福島を訪ねる旅”がコープさが生協で企画され“これだ！！”と申込みました。頭の片隅にはあるものの、日々の暮らしに追われ事故当時あんなに心掛けていた節電も、もうしなくてもいいか、募金や寄付ももうしなくても賠償金も出ているし、必要ないかと私の気持ちも記憶も薄れていっていました。もう一度、今の暮らしや物にこだわる生活を見つめ直したいとの思いもありました。福島というか仙台空港は思いの他近く“遠い”と思っていた東北がとても身近に思え、福島に向かうバスの車窓からの風景も別段と佐賀と同じように見えました。でも何か違う違和感があるというか。広い土地に点在する家、家の回りにたつ草、人も車も動物も何もいない。住んでいるなら作られているであろう米や野菜はなく、草がおいしげり、生き物の臭いもしない。生活臭がしない廃虚と化していました。除染廃棄物を入れたフレコンバックと呼ばれる黒いビニールの四角形に近い物の冬家庭の庭や白い塀で囲まれ外から見えないように隠されたフレコンバックがいたるところにあり、その異様さに目をひかれました。自分の家に除染廃棄物があって、それで終わり、除染は済んだ復興していると思えるだろうか。道路を隔てて右は帰還困難区域、左は居住制限区域に分かれ保障もかわってくるという放射能がうまく道路に沿って数値が変わるはずもなく、子供だましという住民感情を無視したその措置にこちらまで怒りが込み上げてきそうになる。事実この“お金”が絡むため、住民同士のもめ事の原因になっているようである。原発で被害を受け、またこのような事で精神的被害を受け一緒に暮らしていた家族はバラバラに避難し、地域のコミュニティーはなくなり、もっと大きな精神的被害を受けている。翌日訪れた仮設住宅に住む方から現状を聞き、想像以上に精神的に辛い思いをして、毎日を過ごしていることがわかった。夜はほとんどの方が睡眠導入剤を飲んでいらっしゃると聞き、見た目には特に変わらず、お元気そうに見えても心に抱えるもの並大抵のものではないと感じた。広い家に住み、土や自然の中で暮らして来た方達が自然から離され隣とくっついた狭い敷地の中で暮らしているせいかもしれないと思い尋ねると“体力”“気力”“やる気”がでないと寂しそうに語ってくれました。“心の復興はまだまだこれから”と私たちが思っている以上に物質的にも精神的にもほとんど進んでいないという現状を目の当たりにして、玄海原発を抱える佐賀県にとって他人事でもなく、明日は我が身と厳しくつきつけられたようでした。“ただ現状を見ただけ話を聞いただけで何かの役に立てたのかはわかりませんが、この二日間の出来事や景色をしっかり頭に焼きつけ、忘れる事なく人に伝える事、それこそが訪ねた事の意義になると考えました。もう一つしっかりお土産を買い、少しは復興に貢献できたのかなと台風で心配された飛行機に乗り込み、仙台空港を後にしました。この度を企画、案内してくださったコープさが、コープふくしまの皆様ありがとうございました。

●自身が参加した理由である「福島が現在どうなっているか？」さすがに震災から５年と半年が経過し、テレビや新聞というメディアから完全ではなくても、おおよそは復興としているだろうと甘い考えが砕かれた。完全な避難区域はまだ手付かずであると言われ、除染された場所も簡単にビニールシートで覆われただけであり、復興されているように見えただけであった。メディアは日本では最近起きた熊本の地震をピックアップしており、もう東北で起きた震災を過去のものにしたいのだろう。確かにインフラをはじめ全く復興がされていないことはないであろうが、被災された多くの方の心には傷が残っている。文章や映像ではなく、直接生の声で聞くことは当時の酷さがほ伝わってきた。今回の参加は自身に多くのものを与えてくれたと思う。福島と同じで玄海に原発を持つ佐賀も決して東北の震災を過去のものとせずに、考えていかなければいけない。

●初めに今回このような企画を考えられた（提案）事務局の方、又引率して下さった職員の方ご苦労様でした。１泊２日という短い時間、中身の深い旅でした。震災から５年が経ち、今の状況は、マスコミ報道、ネット、福島の理事さん、事務局の方から聞いていたんですが、やはり自分の目で耳で聞いたことによって考え方がずいぶん変わってきました。原発事故は恐いもので、佐賀も原発立地県であり、いつ事故がおこるかもわからない。鳥栖は唐津から離れているから安心じゃないんですね。風の向きで、放射能はどこに流れ飛んでくるのかわからないということです。至る所に、除染廃棄物を入れたフレコンバック、これが５年間の耐久性ということで震災から５年半たっているので、交換（？）時期の物もあるのでは。これを、どう処理するのだろうか、知りたいところです。まだまだ復興には時間がかかると思うし、住民に対しての保障問題、16000 人ほどが依然として県内の仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方の心のケア、避難者向け災害公営住宅の整備の遅れ、まだたくさんの問題があるので、早期解決できるように願っていいます。9/8 毎日新聞（宮城仙台でもらった）には、政府が原発の廃炉や事故の賠償を進めるため、大手電力会社だけでなく、新電力にも費用負担を求める方向で調整に入ったことが７日わかった。電力自由化で大手電力から新電力に契約を切り替える消費者が増えた場合、本来は大手電力が負担すべきコストを国民全体に求めることになるようなことに書かれていた。原発事故は、人災なのに国民に負担をあおぐようなことはしてほしくない。今回の旅で私達が出来る事は、この度に参加された方は、自分の回りに福島の状況（報告）などを話すこと、商品の購入も一緒につたえてほしいです。因みに、鳥栖基山エリアは、１２日にバスハイクがあって、そこで報告してきました。少しでも今の状況を理解していただけたなら幸いです。又このような企画を提案して下さい。（１泊２日じゃ足りないので、２泊３日の工程がいいと思います）

●本来なら稲穂が実っている田畑が草に覆われて家もそのまま残っている中に除染された土を入れたフレコンバックが所々に積み上げられた風景が想像以上の面積で広がり、見かける人は除染作業をされている人だけ時間が止まった様とはこんなことでしょう。この先どれだけたてば、この土地に以前の生活が帰ってくるのか。明日は我が身としてしっかり考えて行かなければと思いました。「行政は混乱を恐れて事実を公表したがらない」「自分達に都合のいい人呼んで学習会を開いたりする」と仮設の管理人の方が話されていたのも心に残りました。雨が降って桃畑見学には行けなかったけれど、選果場では青森から泊まり込みで作業に来てるほど生産量が多く、１６もの品種があり、リンゴみたいにむいて食べてもおいしく、桃は日持ちがしないと思いこんでいたが、これなら「福島応援隊」の桃、安心して注文できます。ＪＡの放射性物質の検査を必ず受けなければ、出荷できない仕組みになっていてさらに安心感が増えました。

●５年前の３．１１のまま時計が止まったようにその凍りついた様な地区の姿に息がつまりました。政府によって線引きされてる。そういう事も行ってみて現実がわかりました。“百聞は一見にしかず”今回は参加させて頂き、大変よかったと思います。果樹農家の若者達のがんばっておられる話を聞き、桃を買って帰りおいしく頂きました。知り合いにも福島の様子を話している所です。

●特に印象に残った事として、まずはバスから見たすべての景色が印象に残っています。車窓からは除染作業中の作業員の方や除染物質（フレコンバック）2011 年のまま時が止まったような街並みが伺えました。店内がぐちゃぐちゃで商品がそのまま残されている衣服店や牛丼チェーン店、コンビニなどが印象に残っています。そんな車窓の中で特に印象に残っているのは車窓から見える家々でした。ガイドのコープふくしま野中専務の「この辺りは誰も住んでいない」という言葉はとても印象に残っています。避難区域なので当たり前のことですが、まだ建って間もない家にも住めないまだ帰れず、住民のいない街（町）というのは一番印象として残っています。２日目に訪れた仮設住宅は飯館村から避難された方々からお話を伺いました。まず、初めに参加者全員自己紹介を行いましたが、感極まって泣いてしまう組合員さんもいらっしゃいました。「すぐ帰れる」という気軽な気持ちで仮設住宅へ皆さん避難されたそうです。「避難して下さい」と呼びかけると、持って来れるだけ荷物を持ってきて混乱するので・・ということで「ちょっと来て」という感じで誘導されたというお話を伺いました。中には長期的な避難になるのなら飼い犬、牛など離してきたのにとおっしゃる方もいらっしゃいました。ここで特に印象に残ったことは、この仮設住宅の管理人さんがおっしゃったことで「命と混乱どっちが大事か？」というお言葉でした。混乱というものを恐れて原点である「命を守る」ということを重視していない対応だったというお話が特に印象に残っています。私は今回の旅に特に事前に勉強せず臨みました。テレビや書籍では取り上げられないようなところを見たいという思いがありました。「原発」についても無知でしたが、今回実際目で現状を視察したことで福島に、原発に関心をもつことができましたし、これからも忘れないと思います。玄海町にも原発があるので、今回今後に活かす教訓として「明日は我が身」だという構え、「お金よりも日々の普通の生活がどれだけ大事なことか」ということを胸に原発反対の取り組みや生協活動に参加を積極的に行いたいと思います。

●今回ふくしまを訪ねる旅に参加して本当に良かったと思いました。津波や地震の情報や状況はテレビで見ていましたが、実際に見てみると言葉が出ないほどでした。天災に加えて原発事故。見て分かる災害とは異なり、放射能という見えない恐怖。精神的な苦しさは時が解決するのだろうか…と思いました。佐賀にも原発があるので他人事ではないと改めて感じました。５年経っていても帰宅ができない状況（地区で大きな差がある状況）に、これが現実なのだと思い知らされました。災害や原発について考える機会になりました。ありがとうございました。また何か企画があれば参加したいと思いました。